

平成24年度

# 宮崎文化振興協会研究紀要

第1号

公益財団法人 宮崎文化振興協会

ごあいさつ

この度、「宮崎文化振興協会研究紀要・第1号」を作成しました。

本紀要は、本協会の職員が日常の業務を遂行する中で課題を見つけ、問題点を分析し、その対応策を検討するという実践的な研究をまとめたものです。

提出された18本の「研究事業計画書」を「業務貢献度」、「緊要度」、「協会の設置目的への貢献度」の観点から審査し、事業費を補助して実施した「研究事業」の成果報告書であり、職員の資質向上を目指して本年度から取り組んでいる事業であります。

時間的にも厳しい状況の中で、自己の実践を振り返り、まとめるという作業に取り組んだ職員の努力に敬意を表したいと思います。

日常の業務を経験的に積み重ねて実践事例を個々に蓄えていくことは、業務を効率的に行うためには必要な作業ですが、自らの実践過程を意識的に見直すという「反省的思考」を行うことも、主体の資質向上のためには避けられない作業過程であると思います。

自分の実践の現状を把握・分析し「問題」を整理することからスタートする「反省的思考」では、整理された「問題」の解決を図るための仮説の設定、設定された仮説を練り上げ・推論し検証するというプロセスが重要となります。

本紀要に掲載している各報告書では、データベース化やアンケート調査等によって客観的に「問題」が整理され、先行研究などの分析から仮説の吟味がなされています。

このような日常の業務内容を吟味する「反省的思考」によって、「問題」がより一般化・論理化され、適切な対応策が設定されると考えます。

この度、「紀要」としてまとめ、多くの方々から本協会の「研究事業」の取り組みに対するご意見をいただける機会を得ることにより、創造の苦しみや楽しさを体験した職員の今後のさらなる精進に期待しているところです。

ご一読いただき研究事業に対するご意見をいただければ幸いです。

平成25年3月吉日

(公財) 宮崎文化振興協会 理事長 田原健二